

令和2年度(令和3年度実施) 各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

分析項目		検証		教育学部・教育学研究科	地域科学部・地域科学研究科	医学系研究科・医学部		工学部・工学研究科	応用生物科学部	自然科学技術研究科	共同獣医学研究科・連合獣医学研究科	連合農学研究科	連合創薬医療情報研究科	全学共通教育
番号	内容	番号	内容			医学科・医療者教育学専攻・医科学専攻	看護学科・看護学専攻							
2-3-1	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	検証1	情報を収集し分析した事例はあるか(C, A)? ○:ある ー:ない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2-3-2		検証2	実施計画を立てた事例はあるか(P)? ○:ある ー:ない	○	○	○	ー	○	○	○	○	○	ー	○
2-3-3		検証3	改善につながった事例があるか(D)? ○:ある ー:ない	○	○	○	ー	○	○	ー	○	○	ー	○
2-5-4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	検証1	FD等を実施しているか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	FD等の実施が授業内容及び方法の改善につながった事例があるか? ○:事例がある ー:明確な改善事例は把握していない	○	○	○	○	ー	○	ー	○	○	ー	○
5-2-2	学生の受入が適切に行われていること	検証1	入学者の基礎学力が昨年度に比較して同等あるいは向上しているか? 学部の場合、基礎学力には教学IR室が提供する大学入学共通テストの得点率も参考にすること。(本検証は、博士後期課程及び博士課程を除く。) ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	×(※1)	○	○	○				
		検証2	検証に基づいて入学者選抜の変更を検討(実施も含む)している事例があるか? ○事例がある ー:事例がない	○	ー	○	○	○	○	○	ー	ー	ー	
5-3-1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	検証1	学部では100%≦実入学者数/入学定員≦110%(105%) となっているか? ○:なっている ×:なっていない	○	○	×	○	○	○					
		検証2	研究科では70%≦実入学者数/入学定員≦130% となっているか? ○:なっている ×:なっていない	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
6-3-2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	検証1	シラバスを点検したか? ○:点検した ×:点検していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○
		検証2	シラバスに「到達すべき目標」が箇条書きで記載されている授業科目の割合(記載率)は? 記載率(100%)＝記載されている科目の総数/授業科目の総数	87.0%	95.0%	100%	100%	86.0%	96.4%	95.0%	100%	100%	60.0%	99.7%
		検証3	記載率が低いと判断する場合は、記載率を高める取組を実施し、改善が図られたか? ○:改善されている △:取り組んでいるが改善にはつながっていない ×:取り組んでいない ー:記載率は十分に高いと判断している	○	ー	○	ー	ー	○	ー	○	ー	×	ー
6-6-3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	検証1	シラバスに記載されている「到達すべき目標」に照らして成績評価を行うことを組織的に確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		検証2	成績評価を厳格にする取組を実施しているか? ○:実施している ×:実施していない	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6-8-1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	学部・研究科の標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等を把握し、適正な状況にあることを確認しているか? ○:適正な状況である ×:適正な状況ではない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6-8-2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	検証1 検証2	本学統一の書式または独自の書式によって就職状況を分析したか? ○:実施した ×:実施していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		検証3	分析によって進路状況等が大学等の目的及び学位授与方針に則して妥当なものであること等を確認しているか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
6-8-3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	検証1	卒業(修了)時の学生から意見聴取を行っているか? ○:行っている ×:行っていない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		検証2	学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査等、意見聴取を行い、学修成果があがっていることが確認できたか? ○:確認している ×:確認していない	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

※1:令和3年度から大学入学共通テストによる入学者を迎え、一概にセンター試験の得点率と比較はできないため「×」と判断した。

令和2年度(令和3年度実施) 各学部・研究科自己点検評価結果集計表(毎年実施分)

<主な取り組み事例>

番号	内容	部局名	取り組み事例
2－3－1 2－3－2 2－3－3	学部研究科において、内部質保証の取組(PDCA-Cycle)が行われていること	教育学部	学部卒業時の進路としての教員就職率について、低い傾向にあるため、定期的に確認することとした。具体的には、各学年のACT科目(1年・2年・3年対象の学校実習科目)の終了後に行う、実習評価アンケート内に「現在の希望進路」調査項目を設定し、教員志望割合の各学年の変化を分析している。
		工学部	2020年度の工学部2年生専門教養科目「技術表現法」の実施に当たり、コロナ対策を考え安全な学習環境を提供するため遠隔教育で実施することとした。15回の授業期間を基礎編と実践編に分け、基礎編は動画教材で「創造性」「問題解決」「システム思考」「デザイン思考」について視聴課題を課し基本事項を習得した。実践編では基礎編で習得した理論を用いて実践的に演習課題に取り組み理解度を深化させる取り組みを計画立てた。遠隔教育のメリットを生かし双方向型のアクティブラーニングを実施した。
		応用生物科学部	1年次の教養基礎科目(基礎数学・物理学・化学・生物学)のクラス分けは、これまで入学時に行う「習熟度テスト」の結果を利用してきたが、令和元年度に成績との相関などを各科目の分科会において検証した。令和2年度は、令和元年度の検証結果をもとに教養基礎科目のあり方及び「習熟度テスト」の実施の見直しについて検討した結果、令和3年度から「習熟度テスト」を取りやめて、化学は学籍番号順に2クラス、化学以外の3科目は初回の授業で高等学校での学習状況に関するアンケートをとり、学生の意向に基づく2クラス編成で行うこととした。また基礎数学については、このクラス編成とは別に「補習クラス」を設け、受講希望者を募ることとした。
		自然科学技術研究科	研究科共通科目である「リーダーシップ入門」について、担当講師を見直し、令和2年度は講師を工学系と応生系それぞれから選考し、実施した。また、令和3年度は本学の社会システム経営学環の教員が担当し、より体系立てて学ぶ授業内容となるよう計画した。
		連合農学研究科	国際連携教育コンソーシアム(IC-GU12)ラウンドテーブルでのアドバイスを受け、中間発表に協定校教員がオンライン参加することを進めることとした。
2－5－4	授業の内容及び方法の改善を図るためのファカルティ・ディベロップメント(FD)を組織的に実施していること	地域科学部	国際教養コース学生の留学体験にかかるFDでは新型コロナウイルスの蔓延に伴う留学の中止と帰国、帰国後のオンラインによる留学先講義の受講など貴重な経験が共有された一方で、次年度以降のコース学生の留学について困難が予想されたため、海外大学のサマースクール等の単位化を検討し、コース／プログラム学生に積極的に参加するよう促した。
		医学部医学科	令和2年度当初、新型コロナウイルス感染症の影響で全学的に授業の実施方針を検討していた中で「医学系研究科・医学部オンライン講義実施対策チーム」を立ち上げ、いち早く授業のオンライン化に踏み切り、その後もAIMSの活用やTeamsによるテューター実施等の電子マニュアル、ネット環境についての学生へのアンケートなど先進的な取組みを展開している。
5－2－2	学生の受入が適切に行われていること	教育学部	2019年度より、入学後冒頭により詳細な希望進路アンケート(就職希望学校種など含む)を開始している。このアンケートの項目から教員志望率を算出すると、ぎふ清流入試入学者は格段に高い割合を示していることが分かっている。より教員志望の高い学生を選抜するために、2021年度入試から後期日程を廃止し、前期日程において全受験生を対象とする共通面接を導入した。
5－3－1	実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないこと	共同獣医学研究科	本研究科では昨年度より「大学院進学促進ワーキンググループ」を結成し、現状の分析及び今後の対応について検討を行っている。学部学生の進学を促すための方策として、研究に興味のある学生については低学年から研究室への訪問・見学を促したり、学部－大学院接続プログラムの設定を検討している。また、社会人学生の更なる入学促進を促すため、近隣県(岐阜県、愛知県、三重県)の県庁における畜産関連研究所勤務獣医師、および獣医師会所属の臨床獣医師に対して、大学院の説明会を実施している。
6－3－2	授業科目の内容及、授与する学位に相応しい水準となっていること	応用生物科学部	年度末に全教員に対しアンケートにより「シラバス・成績評価に関する自己点検評価」を行っており、令和2年度は90%の教員がシラバスの記載どおりに授業を実施したと回答、一方成績評価は、88.8%の教員がシラバス記載どおりに実施できたと回答した。特に令和2年度前学期はコロナ禍の影響で対面以外の方法で実施した科目があり、次年度の改善計画についてもオンデマンド型講義に関する具体的な工夫・改善点が多く寄せられた。また、同アンケートでe-Learningで実施した授業と対面の場合との教育効果を比較したが、教育効果が下がった(22.5%)に対し、上がった(10.1%)、遜色なかった(61.8%)であった。
6－6－3	成績評価基準に則り各授業科目の成績評価や単位認定が厳格かつ客観的に行われていることについて、組織的に確認していること	医学部医学科	「専門的能力の要素(アウトカム)の内容と水準」として、基本的知識と判断力、分析力と問題解決力、実践力、倫理観と省察力の4つの要素の修得を保証するために達成すべき水準を具体的に定め、シラバス(授業案内)等で学生に周知している。
		医学部看護学科	講義・演習科目については、科目担当者らによる判定会議を行い、個々の評価と全体の傾向を鑑み評価を行っている。実習評価については、学生による自己評価ののち臨地実習指導者、実習担当教員による評価を実施し、さらに、学生全体の得点状況の不均衡がないか確認し決定する。
		全学共通教育	全学共通教育授業担当教員全員に、教員ハンドブックを作成し配布している。ハンドブックには授業実施に関する記載から、シラバス作成、試験実施、成績提出までを網羅しており授業実施の際の指標としている。
6－8－1	標準修業年限内の卒業(修了)率及び「標準修業年限×1.5」年内卒業(修了)率、資格取得等の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	教育学部	卒業時に各講座の卒業論文指導教員、教職実践演習担当教員に対し、ディプロマポリシーと対応開講科目リスト、及び当該学生の各科目成績リストを提示する。その上で、各学生の専門的能力評価を実施し、卒業時のディプロマポリシー各項目が学位取得にふさわしいかの評価を行っている。
6－8－2	就職(就職希望者に対する就職者の割合)及び進学の状況が、大学等の目的及び学位授与方針に則して適正な状況にあること	応用生物科学部	応用生命科学課程及び生産環境科学課程の2課程は、専門性進路率が過去5年いずれもほぼ9割に達している。共同獣医学科(獣医学課程)は、ほぼ100%の者が専門性に関連する進路に進んでいる。
6－8－3	卒業(修了)時の学生からの意見聴取の結果により、大学等の目的及び学位授与方針に則した学習成果が得られていること	連合農学研究科	令和2年度3月期修了生アンケートにおいて、学位取得に64%の修了生が努力を要したと回答し、93%の修了生が博士号学位の取得に意味があったと回答していることから研究意欲及び学習成果の向上があったと判断する。